



田中俊雄

『田中家記』より

市立米沢図書館 先人顕彰コーナー 企画展

田中俊雄展

—沖縄織物を救った米沢人—

米沢の機屋「田駒」に生まれた田中俊雄(1914-1953)は、「民藝」運動の中心人物であった柳宗悦らとともに活動し、沖縄(琉球)の織物について研究をした人物です。

研究で集めた織物の裂地を、太平洋戦争で焦土と化した沖縄に捧げ、沖縄の織物の復興を願った、田中の業績を紹介します。

展覧会名	市立米沢図書館 先人顕彰コーナー 企画展「田中俊雄展—沖縄織物を救った米沢人—」		
会期	2022年1月28日(金)～3月23日(水)	休館日	2/1(火)～7(月) 蔵書点検 , 2/24(木)
開館時間	平日 10時～19時 土日祝 9時～19時	* 図書館の開館時間に準じます。	
会場	ナセBA 中2階先人顕彰コーナー(多目的展示室)		
料金	無料		
主催	公益財団法人米沢上杉文化振興財団(ナセBA指定管理者)		

本展に関するお問合せ

市立米沢図書館
展示担当:石黒志保(郷土資料担当)
〒992-0045 米沢市中央1-10-6
TEL 0238-26-3010 FAX 0238-26-3012
<https://www.library.yonezawa.yamagata.jp/>
E-mail : tosyokan@library.yonezawa.yamagata.jp

展覧会について

田中俊雄(たなか としお、1914～1953)という米沢出身の人物をご存知でしょうか。米沢の機屋(はたや)の家に生まれ、柳宗悦(やなぎ むねよし)・濱田庄司(はまだ しょうじ)・河井寛次郎(かわい かんじろう)が起こした「民藝(みんげい)」運動に参加し、昭和14年(1939)から15年にかけて3回、沖縄を訪れ、同地や八重山諸島(やえやましょとう)、台湾等の織物の調査研究を行いました。

しかし、玲子夫人との共著『沖縄織物裂地(きれじ)の研究』を刊行した翌年の昭和28年(1953)に、38歳の若さで亡くなります。まだこれから『沖縄織物文化の研究』、『御絵図帳(みえずちょう)の研究』と沖縄の織物の研究を刊行する予定の、志半ばでの事故死でした。

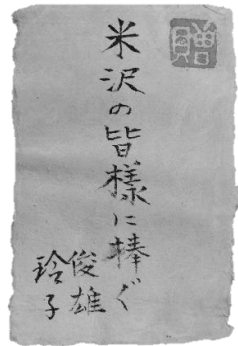
田中が生涯をかけて収集した沖縄の織物の裂地や調査ノート類は現在、沖縄県立博物館・美術館や日本民藝館に収蔵されています。沖縄は太平洋戦争において焦土と化し、人々の生活も文化も破壊されつくされました。昭和27年(1952)、田中夫妻は沖縄織物文化の復興に役立ててもらおうべく、自身が収集した裂地を沖縄に寄贈します。そこには、色とりどりの裂地が貼られており、「傷痕(しょうこん)の沖縄に捧ぐ」とし、「麗(うるわ)シノ織物ノ世界ガ蘇生スルー助」となることを願って送ったことが記されています。

来年は田中俊雄の没後70年にあたります。また昨年は「民藝」運動を起こした柳宗悦の没後60年でもありました。「民藝」という言葉が生まれてからおよそ100年。「民藝」運動の中で田中俊雄が残した功績を地元米沢で展示紹介します。

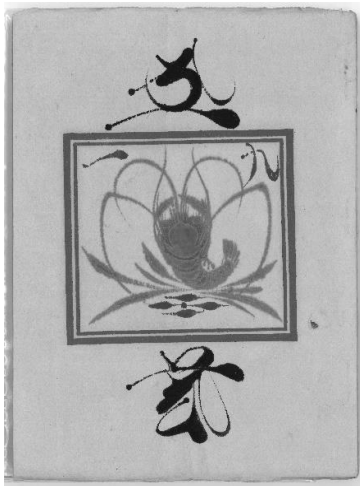
展示資料



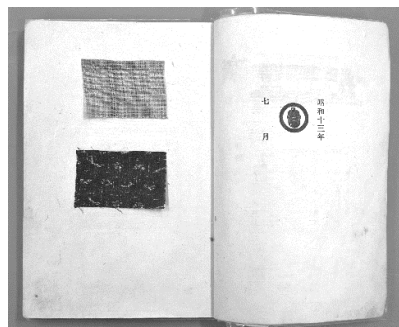
田中俊雄・玲子著『沖繩織物裂地の研究』、明治書房、昭和27年(1952)



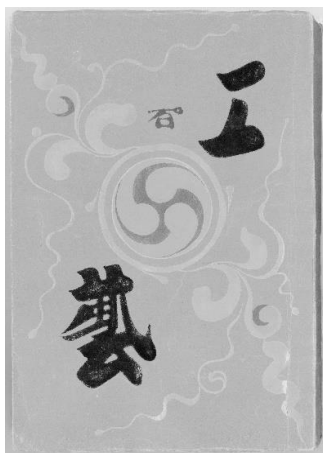
田中俊雄が生涯で出版した唯一の研究書。カバー見返しに「米沢の皆様へ捧ぐ」と付箋が貼られ、田中自身から当館に寄贈されたことがわかる。序を柳宗悦が記し、沖縄、そしてその文化や織物が太平洋戦争で灰燼に帰してしまったが、沖縄は「並々ならぬ文化に輝いている国なのだ」ということを記録しておかぬばならぬ」として、この田中の研究記録が「一篇の悲しい挽歌」とはなりましたが、「讃歌である限りは人々の心に力と望みとを呼び醒ましめるであろう」と締められている。



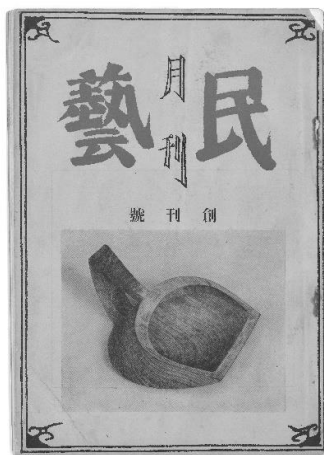
『工藝』第91号 「米沢の織物」特集号、昭和13年9月発行、日本民藝協会



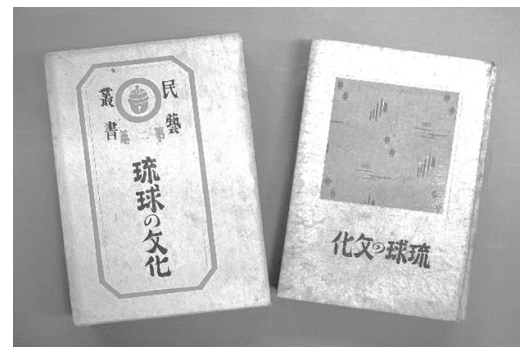
日本民藝協会発行の雑誌『工藝』。この「米沢の織物」特集号は、田中が蒐集した米織の古い裂地が添付されている。同号は「絲の持味—米沢の絲織について」、「米琉の話」、「米沢機業史年表」等、ほとんど田中が執筆している米織の紹介号である。



『工藝』第100号 「琉球の風物」特集号



『月刊民藝』第1巻第1号 創刊号



式場隆三郎編『琉球の文化』、昭和書房、昭和16年発行